

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成29年11月9日 (2017.11.9)

【公表番号】特表2016-534983(P2016-534983A)

【公表日】平成28年11月10日 (2016.11.10)

【年通号数】公開・登録公報2016-063

【出願番号】特願2016-518681(P2016-518681)

【国際特許分類】

A 0 1 N 25/00 (2006.01)

A 0 1 N 25/16 (2006.01)

A 0 1 N 53/06 (2006.01)

A 0 1 P 7/04 (2006.01)

A 0 1 N 25/04 (2006.01)

A 0 1 M 7/00 (2006.01)

【 F I 】

A 0 1 N 25/00 1 0 1

A 0 1 N 25/16

A 0 1 N 53/00 5 0 6 Z

A 0 1 P 7/04

A 0 1 N 25/04 1 0 2

A 0 1 N 25/04 1 0 1

A 0 1 N 25/00 1 0 2

A 0 1 M 7/00 U

【手続補正書】

【提出日】平成29年9月28日 (2017.9.28)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 0 5 】

さらに、いくつかの地域では、大量に水を使用できない。多くの農薬活性物質は、スプレードリフトする脆弱性があり、正確に適用し得ないスプレーで作物や土壤に適用される。活性成分は、典型的には、フィールドまたは農作物にスプレーされる前にタンクに加えられ、水のような希釈剤と混合される。活性成分は、例えば、乳剤（E C）、水分散性粒剤（W G）、マイクロカプセル（M E）、または懸濁剤（S C）のような多くの既知の製剤種のいずれか1つであり得る。希釈した後、現在既知の製剤および技術を用いた場合、典型的な適用率は、約 3 ～ 25 ガロン / エーカーからである。典型的な割合で 500 エーカーへの適用は、1500 ～ 12,500 ガロンの液体を必要とする。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 1 3 】

本実施形態の別の態様において、液体農薬製剤は農薬泡状物質を作るために発泡され得る。得られた泡状物質は、前の実施形態の液体農薬製剤と気体とを含む。本実施形態の1つの態様において、気体は空気である。本実施形態の別の態様において、泡状物質は、溝

内の種に投与された場合、作物保護効果を提供し得る。本実施形態のさらなる態様において、泡状物質は、15、25、40、50、60、70、80、90または100の膨張係数を有し得る。別の態様において、泡状物質は、40および60の間の範囲の膨張係数を有し得る。本実施形態の別の態様において、農薬的活性成分は、マイクロエマルジョン、水中油型濃縮エマルジョン、懸濁液、懸濁剤、乳剤、またはマイクロカプセルの形態で液体農薬製剤中に存在する。本実施形態の好ましい態様において、農薬活性成分は懸濁剤の形態である。本実施形態のさらなる態様において、懸濁剤は二年のタイムスケールに渡って安定である。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0029

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0029】

発泡性製剤の有効成分は、除草剤、殺虫剤、殺菌剤、肥料またはそれらの組み合わせを含む懸濁剤または他の適切な製剤型に製剤化され得る農薬上適切な活性成分である。発泡性製剤中の活性成分の最終濃度は、0.1～6.00 l b s a . i . / ガロン、0.75～4.00 l b s a . i . / ガロンの範囲であり、好ましくは0.75～2.00 l b s a . i . / ガロンの範囲であり得る。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0032

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0032】

殺菌剤：B1) ビテルタノール、フロムコナゾール、シプロコナゾール、ジフェノコナゾール、ジニコナゾール (d i n i c o n a z o l e)、エニルコナゾール、エポキシコナゾール、フルキンコナゾール、フェンブコナゾール、フルシラゾール、フルトリアホル、ヘキサコナゾール、イミベンコナゾール (i m i b e n c o n a z o l e)、イブコナゾール、メトコナゾール、ミクロブタニル、ペンコナゾール、プロピコナゾール、プロチオコナゾール、シメコナゾール、トリアジメホン、トリアジメノール、テブコナゾール、テトラコナゾール、トリチコナゾール、プロクロラズ、ペフラゾエート (p e f u r a z o a t e)、イマザリル、トリフルミゾール、シアゾファミド、ベノミル、カルベンダジム、チアベンダゾール、フベリダゾール、エタボキサム、エトリジアゾールおよびヒメキサゾール、アザコナゾール、ジニコナゾール - M (d i n i c o n a z o l e - M)、オキシポコナゾール (o x p o c o n a z o l)、バクロブトラゾール、ウニコナゾール、1 - (4 - クロロ - フェニル) - 2 - ([1 , 2 , 4] トリアゾール - 1 - イル) - シクロヘプタノール並びにイマザリルスルフェート (i m a z a l i l s u l f p h a t e) からなる群から選択されるアゾール；B2) アゾキシストロビン、ジモキシストロビン、エネストロブリン (e n e s t r o b u r i n)、フルオキサストロビン、クレソキシムメチル、メトミノストロビン、オリサストロビン、ピコキシストロビン、ピラクロストロビン、トリフロキシストロビン、エネストロブリン (e n e s t r o b u r i n)、メチル (2 - クロロ - 5 4 1 - (3 - メチルベンジルオキシイミノ) エチル] ベンジル) カルバメート、メチル (2 - クロロ - 5 - [1 - (6 - メチルピリジン - 2 - イルメトキシイミノ) エチル] ベンジル) カルバメートおよびメチル 2 - (オルト - (2 , 5 - ジメチルフェニルオキシメチレン) - フェニル) - 3 - メトキシアクリレート、2 - (2 - (6 - (3 - クロロ - 2 - メチル - フェノキシ) - 5 - フルオロ - ピリミジン - 4 - イルオキシ) - フェニル) - 2 - メトキシイミノ - N - メチル - アセトアミド、および 3 - メトキシ - 2 - (2 - (N - (4 - メトキシ - フェニル) - シクロプロパンカルボキシイミドイルスルファニルメチル) - フェニル) - アクリル酸メチルエステルからなる群から選択さ

れるストロビルリン；B3)カルボキシ、ベナラキシル、ベナラキシル-M、フェンヘキサミド、フルトラニル、フラメトピル、メプロニル、メタラキシル、メフェノキサム、オフレース(ofurace)、オキサジキシル、オキシカルボキシ、ペンチオピラド、イソピラザム、チフルザミド、チアジニル、3,4-ジクロロ-N-(2-シアノフェニル)イソチアゾール-5-カルボキサミド、ジメトモルフ、フルモルフ、フルメトベル(flumetover)、フルオピコリド(ピコベンズアミド)、ゾキサミド、カルプロパミド、ジクロシメット、マンジプロパミド、N-(2-(443-(4-クロロフェニル)プロパ-2-インイルオキシ]-3-メトキシフェニル)エチル)-2-メタンスルホニル-アミノ-3-メチルブチルアミド、N-(2-(4-[3-(4-クロロフェニル)プロパ-2-インイルオキシ]-3-メトキシフェニル)エチル)-2-エタンスルホニルアミノ-3-メチルブチルアミド、メチル-3-(4-クロロフェニル)-3-(2-イソプロポキシカルボニル-アミノ-3-メチル-ブチルアミノ)プロピオネート、N-(4'-プロモピフェニル-2-イル)-4-ジフルオロメチルA-メチルチアゾール-6-カルボキサミド、N-(4'-トリフルオロメチル-ピフェニル-2-イル)-4-ジフルオロメチル-2-メチルチアゾール-5-カルボキサミド、N-(4'-クロロ-3'-フルオロピフェニル-2-イル)-4-ジフルオロメチル-2-メチルチアゾール-5-カルボキサミド、N-(3\4'-ジクロロ-4-フルオロピフェニル-2-イル)-3-ジフルオロメチル-1-メチルピラゾール-4-カルボキサミド、N-(3',4'-ジクロロ-5-フルオロピフェニル-2-イル)-3-ジフルオロメチル-1-メチルピラゾール-4-カルボキサミド、N-(2-シアノ-フェニル)-3,4-ジクロロイソチアゾール-5-カルボキサミド、2-アミノ-4-メチルチアゾール-5-カルボキシアニリド、2-クロロ-N-(1,1,3-トリメチル-インダン-4-イル)-ニコチンアミド、N-(2-(1,3-ジメチルブチル)-フェニル)-1,3-ジメチル-5-フルオロ-1H-ピラゾール-4-カルボキサミド、N-(4'-クロロ-3',5-ジフルオロ-ピフェニル-2-イル)-3-ジフルオロメチル-1-メチル-1H-ピラゾール-4-カルボキサミド、N-(4'-クロロ-3',5-ジフルオロ-ピフェニル-2-イル)-3-トリフルオロメチル-1-メチル-1H-ピラゾール-4-カルボキサミド、N-(3',4'-ジクロロ-5-フルオロ-ピフェニル-2-イル)-3-トリフルオロメチル-1-メチル-1H-ピラゾール-4-カルボキサミド、N-(3',5-ジフルオロ-4'-メチル-ピフェニル-2-イル)-3-トリフルオロメチル-1-メチル-1H-ピラゾール-4-カルボキサミド、N-(3',5-ジフルオロ-4'-メチル-ピフェニル-2-イル)-3-トリフルオロメチル-1-メチル-1H-ピラゾール-4-カルボキサミド、N-(シス-2-ビスクロプロピル-2-イル-フェニル)-3-ジフルオロメチル-1-メチル-1H-ピラゾール-4-カルボキサミド、N-(トランス-2-ビスクロプロピル-2-イル-フェニル)-3-ジフルオロ-メチル-1-メチル-1H-ピラゾール-4-カルボキサミド、フルオピラム、N-(3-エチル-3,5-5-トリメチル-シクロヘキシル)-3-ホルミルアミノ-2-ヒドロキシ-ベンズアミド、オキシテトラサイクリン、シルチオフアム、N-(6-メトキシ-ピリジン-3-イル)シクロプロパンカルボキサミド、2-ヨード-N-フェニル-ベンズアミド、N-(2-ビスクロ-プロピル-2-イル-フェニル)-3-ジフルオロメチル-1-メチルピラゾール-4-イルカルボキサミド、N-(3',4',5'-トリフルオロピフェニル-2-イル)-1,3-ジメチルピラゾール-4-イルカルボキサミド、N-(3',4',5'-トリフルオロピフェニル-2-イル)-1,3-ジメチル-5-フルオロピラゾール-4-イル-カルボキサミド、N-(3',4',5'-トリフルオロピフェニル-2-イル)-5-クロロ-1,3-ジメチル-ピラゾール-4-イルカルボキサミド、N-(3',4',5'-トリフルオロピフェニル-2-イル)-3-フルオロメチル-1-メチルピラゾール-4-イルカルボキサミド、N-(3',4',5'-トリフルオロピフェニル-2-イル)-3-(クロロフルオロメチル)-1-メチルピラゾール-4-イルカルボキサミド、N-(3',4',5'-トリフルオロピフェニル-2-イル)-3-ジフルオロメチル-1-メチルピラゾール-4-イ

[illegible]

- 5 - フルオロビフェニル - 2 - イル) - 1 - メチル - 3 - トリフルオロメチル - 1 H - ピラゾール - 4 - カルボキサミド、N - (3' , 4' - ジクロロ - 5 - フルオロビフェニル - 2 - イル) - 1 - メチル - S - ジフルオロメチル - 1 H - ピラゾールカルボキサミド、N - (3' , 4' - ジフルオロ - 5 - フルオロビフェニル - 2 - イル) - 1 - メチル - 3 - ジフルオロメチル - 1 H - ピラゾール - 4 - カルボキサミド、N - (3' , 4' - ジクロロ - 5 - フルオロビフェニル - 2 - イル) - 1 , 3 - ジメチル - 1 H - ピラゾール - 4 - カルボキサミド、N - (3' - クロロ - 4' - フルオロ - 5 - フルオロビフェニル - 2 - イル) - 1 - メチル - 3 - ジフルオロメチル - 1 H - ピラゾール - 4 - カルボキサミド、N - (4 - フルオロ - 4 - フルオロビフェニル - 2 - イル) - 1 - メチル - 3 - トリフルオロメチル - 1 H - ピラゾール - 4 - カルボキサミド、N - (4' - フルオロ - 5 - フルオロビフェニル - 2 - イル) - 1 - メチル - 3 - トリフルオロメチル - 1 H - ピラゾール - 4 - カルボキサミド、N - (4' - クロロ - 5 - フルオロビフェニル - 2 - イル) - 1 - メチル - 3 - トリフルオロメチル - 1 H - ピラゾール - 4 - カルボキサミド、N - (4' - メチル - 5 - フルオロビフェニル - 2 - イル) - 1 - メチル - 3 - トリフルオロメチル - 1 H - ピラゾール - 4 - カルボキサミド、N - (4' - フルオロ - 5 - フルオロビフェニル - 2 - イル) - 1 , 3 - ジメチル - 1 H - ピラゾール - 4 - カルボキサミド、N - (4' - クロロ - 5 - フルオロビフェニル - 2 - イル) - 1 , 3 - ジメチル - 1 H - ピラゾール - 4 - カルボキサミド、N - (4' - メチル - 5 - フルオロビフェニル - 2 - イル) - 1 , 3 - ジメチル - 1 H - ピラゾール - 4 - カルボキサミド、N - (4' - フルオロ - 6 - フルオロビフェニル - 2 - イル) - 1 - メチル - 3 - トリフルオロメチル - 1 H - ピラゾール - 4 - カルボキサミド、N - (4' - クロロ - 6 - フルオロビフェニル - 2 - イル) - 1 - メチル - 3 - トリフルオロメチル - 1 H - ピラゾール - 4 - カルボキサミド、N - [2 - (1 , 1 , 2 , 3 , 3 , 3 - ヘキサフルオロプロポキシ) - フェニル] - 3 - ジフルオロメチル - 1 - メチル - 1 H - ピラゾール - 4 - カルボキサミド、N - [4' - (トリフルオロメチルチオ) - ビフェニル - 2 - イル] - 3 - ジフルオロメチル - 1 - メチル - 1 H - ピラゾール - 4 - カルボキサミド、および N 4 4' - (トリフルオロメチルチオ) - ビフェニル - 2 - イル] - 1 - メチル - 3 - トリフルオロメチル - 1 - メチル - 1 H - ピラゾール - 4 - カルボキサミドからなる群から選択されるカルボキサミド；

B 4) フルアジナム、ピリフェノックス (pyrifenox)、ブピリメート、シプロジニル、フェナリモル、フェリムゾン、メパニピリム、ヌアリモル、ピリメタニル、トリフォリン、フェンピクロニル、フルジオキシニル、アルジモルフ、ドデモルフ、フェンプロピモルフ、トリデモルフ、フェンプロピジン、イプロジオン、プロシミドン、ピンクロゾリン、ファモキサドン、フェンアミドン、オクチリノン (octhilinone)、プロベン (proben) - アゾール、5 - クロロ - 7 - (4 - メチルペリジン - 1 - イル) - 6 - (2 , 4 , 6 - トリフルオロフェニル) 4 1 , 2 , 4] トリアゾロ [1 , 5 - a] ピリミジン、アニラジン、ジクロメジン、ピロキロン、プロキナジド (proquinazide)、トリシクラゾール、2 - ブトキシ - 6 - ヨード - 3 - プロピルクロメン (propylchromen) - 4 - オン、アシベンゾラル - S - メチル、カプタホル、キャプタン、ダゾメット、ホルペット、フェノキサニル、キノキシフェン、N , N - ジメチル - 3 - (3 - プロモ - 6 - フルオロ - 2 - メチルインドール - 1 - スルホニル) - [1 , 2 , 4] トリアゾール - 1 - スルホンアミド、5 - エチル - 6 - オクチル 4 1 , 2 , 4] トリアゾロ [1 , 5 - a] ピリミジン - 2 , 7 - ジアミン、2 , 3 , 5 , 6 - テトラクロロ - 4 - メタンスルホニル - ピリジン、3 , 4 , 5 - トリクロロピリジン - 2 , 6 - ジカルボニトリル、N - (1 - (5 - プロモ - 3 - クロロ - ピリジン - 2 - イル) - エチル) - 2 , 4 - ジクロロニコチンアミド、N - ((5 - プロモ - 3 - クロロピリジン - 2 - イル) - メチル) - 2 , 4 - ジクロロ - ニコチンアミド、ジフルメトリム、ニトラピリン、ドデモルフアセテート (dodemorphacetate)、フルオロイミド、ブラストサイジン - S、キノメチオネート、デバカルブ、ジフェンゾクワット、ジフェンゾクワット - メチルスルフェート (methylsulphate)、オキシソリン酸およびピペラリンからなる群から選択される複素環式化合物；

B 5) マンコゼブ、マネブ、メ

タム、メタスルホカルブ (methasulphocarb)、メチラム、フェルバム、プロピネブ、チラム、ジネブ、ジラム、ジエトフェンカルブ、イプロバリカルブ、ベンチアバリカルブ、プロパモカルブ、プロパモカルブ塩酸塩、4-フルオロフェニル-N-(1-(1-(4-シアノフェニル)-エタンスルホニル)ブト-2-イル)カルバメート、メチル-3-(4-クロロ-フェニル)-3-(2-イソプロキシカルボニルアミノ-3-メチル-ブチリルアミノ)プロパノエートからなる群から選択されるカルバメート；またはB6)グアニジン、ドジン、ドジン遊離塩基、イミノクタジン、グアザチン、抗生物質、例えば、カスガマイシン、ストレプトマイシン、ポリオキシシン、バリダマイシンA、ニトロフェニル誘導体：ピナバクリル、ジノカップ、ジノブトン、硫黄含有複素環式化合物：ジチアノン、イソプロチオラン、有機金属化合物：フェンチン塩、有機リン化合物：エジフェンホス、イプロベンホス、ホセチル、ホセチル-アルミニウム、亜リン酸およびその塩、ピラゾホス、トルクロホスメチル、有機塩素化合物：ジクロフルアニド、フルスルファミド、ヘキサクロロベンゼン、フタリド、ペンシクロン、キントゼン、チオファネートメチル、トリルフルアニド、その他：シフルフェナミド、シモキサニル、ジメチリモール、エチリモール、フララキシル、メトラフェノンおよびスピロキサミン、グアザチン酢酸塩、イミノクタジン-トリアセテート、イミノクタジントリス(アルベシレート(albesilate))、カスガマイシン塩酸塩水和物、ジクロロフェン、ペンタクロロフェノール及びその塩、N-(4-クロロ-2-ニトロ-フェニル)-N-エチル-4-メチル-ベンゼンスルホンアミド、ジクロラン、ニトロタールイソプロピル、テクナゼン、ピフェニル、プロノポール、ジフェニルアミン、ミルジオマイシン、オキシシン銅(oxincopper)、プロヘキサジオンカルシウム、N-(シクロプロピルメトキシイミノ-(6-ジフルオロメトキシ-2,3-ジフルオロフェニル)-メチル)-2-フェニルアセトアミド、N'-(4-(4-クロロ-3-トリフルオロメチル-フェノキシ)-2,5-ジメチル-フェニル)-N-エチル-N-メチルホルムアミジン、N'-(4-(4-フルオロ-3-トリフルオロメチル-フェノキシ)-2,5-ジメチル-フェニル)-N-エチル-N-メチルホルムアミジン、N'-(2-メチル-5-トリフルオロメチル-4-(3-トリメチルシラニル-プロボキシ)-フェニル)-N-エチル-N-メチルホルムアミジンおよびN'-(5-ジフルオロメチル-2-メチル-4-(3-トリメチルシラニル-プロボキシ)-フェニル)-N-エチル-N-メチルホルムアミジンからなる群から選択される他の殺菌剤、およびそれらの任意の組み合わせ。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0033

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0033】

除草剤：C1)アセチルCoAカルボキシラーゼ阻害剤(ACC)、例えば、アロキシジム、クレトジム、クロプロキシジム(cloproxydim)、シクロキシジム、セトキシジム、トラルコキシジム、ブトロキシジム、クレフォキシジム(clefoxydim)またはテブラロキシジムのようなシクロヘキセノンオキシムエーテル：クロジナホッププロパルギル、シハロホップブチル、ジクロホップメチル、フェノキサプロップエチル、フェノキサプロップ-P-エチルまたはフェンチアプロップエチル(fenthiapropethyl)、フルアジホップブチル、フルアジホップ-P-ブチル、ハロキシホップエトキシエチル、ハロキシホップメチル、ハロキシホップ-P-メチル、イソキサピリホップ、プロパキサホップ、キサロホップエチル、キサロホップ-P-エチルまたはキサロホップテフリルのようなフェノキシフェノキシプロピオン酸エステル：またはフランプロップ(flamprop)メチルまたはフランプロップイソプロピルなどのアリールアミノプロピオン酸；C2)アセト乳酸塩合成酵素阻害剤(AS)、例えば、イマザビル、イマザキン、イマザメタベンズ-メチル(imazame)、イマザモックス、イマザピックまたはイマゼタピルのようなイミダゾリノン；ピリチオバック酸、ピリチオバツ

クナトリウム、ビスピリバック - ナトリウム、K I H - 6 1 2 7 またはピリベンゾキシム (p y r i b e n z o x y m) のようなピリミジルエーテル；フロラスラム、フルメトスラムまたはメトスラムのようなスルホンアミド；または、アミドスルフロ、アジメスルフロ、ペンスルフロメチル、クロリムロン - エチル、クロルスルフロ、シノスルフロ、シクロスルファミロン、エタメトスルフロメチル、エトキシスルフロ、フラザスルフロ、ハロスルフロメチル、イマゾスルフロ、メトスルフロメチル、ニコスルフロ、プリミスルフロメチル、プロスルフロ、ピラゾスルフロ - エチル、リムスルフロ、スルホメツロンメチル、チフェンスルフロメチル、トリアスルフロ、トリベヌロン - メチル、トリフルスルフロメチル、トリトスルフロ、スルホスルフロ、ホラムスルフロまたはヨードスルフロのようなスルホニル尿素；C 3) 例えば、アリドクロル (C D A A)、ベンゾイルブロップ - エチル、プロモブチド、クロルチアミド、ジフェナミド、エトベンザニジベンズクロメト (e t o b e n z a n i d i b e n z c h l o m e t)、フルチアミド、ホサミン (f o s a m i n)、またはモナリド (m o n a l i d e) のようなアミド；C 4) オーキシシン除草剤、例えば、クロピラリド若しくはピクロラムのようなピリジンカルボン酸；または 2 , 4 - D 若しくはベナゾリン；C 5) オーキシシン輸送阻害剤、例えば、ナプタラメ (n a p t a l a m e) またはジフルフェンゾピル；C 6) カロテノイド生合成阻害剤、例えば、ベンゾフェナップ、クロマゾン (ジメタゾン)、ジフルフェニカン、フルオロクロリドン、フルリドン、ピラゾリネート、ピラゾキシフェン、イソキサフルトール、イソキサクロルトール、メソトリオン、スルコトリオン (クロルメスロン)、ケトスピラドックス、フルルタモン、ノルフルラゾンまたはアミトロール (a m i t r o l)；C 7) エノールビルビルシキミ酸塩 - 3 - リン酸塩合成酵素阻害剤 (E P S P S)、例えば、グリホサートまたはスルホサート；C 8) グルタミン合成酵素阻害剤、例えば、ピアラホス (b i a l a f o s , b i a l a p h o s) またはグルホシネート - アンモニウム；C 9) 脂質生合成阻害剤、例えば、アニロホス若しくはメフェナセツのようなアニリド；ジメテナミド、S - ジメテナミド、アセトクロール、アラクロール、ブタクロール、ブテナクロール、ジエタチルエチル、ジメタクロール、メタザクロール、メトラクロール、S - メトラクロール、プレチラクロール、プロバクロール、プリナクロール、テルブクロール、テニルクロール若しくはキシラクロールのようなクロロアセトアニリド、；ブチレート、シクロエート、ジアレート、ジメビペレート、E P T C、エスプロカルブ、モリネート、ペブレート、プロスルホカルブ、チオベンカルブ (ベンチオカルブ)、トリアレート若しくはバーナレート (v e m o l a t e) のようなチオ尿素、またはベンフレセートまたはパーフルイドン；C 1 0) 有糸分裂阻害剤、例えば、アシュラム、カルベタミド (c a r b e t a m i d)、クロルプロファミン、オルベンカルブ、プロナミド (p r o n a m i d (プロピズアミド (p r o p y z a m i d))、プロファミン若しくはチオカルバジルのようなカルバメート；ベネフィン、ブトラリン、ジニトラミン (d i n i t r a m i n)、エタルフルラリン、フルクロラリン、オリザリン、ペンジメタリン、プロジアミン若しくはトリフルラリンのようなジニトロアニリン；ジチオピル若しくはチアゾピルのようなピリジン；またはブタミホス、クロルタルジメチル (D C P A) 若しくはマレイン酸ヒドラジド；C 1 1) プロトボルフィリノーゲン I X オキシダーゼ阻害剤、例えば、アシフルオルフェン、アシフルオルフェン - ナトリウム、アクロニフェン、ピフェノックス、クロロニトロフェン (C N P)、エトキシフェン、フルオロジフェン、フルオログリコフェンエチル、フォメサフェン、フリロキシフェン、ラクトフェン、ニトロフェン、ニトロフルオルフェン若しくはオキシフルオルフェンのようなジフェニルエーテル；オキサジアルギル若しくはオキサジアゾンのようなオキサジアゾール；アザフェニジン、ブタフェナシル、カルフェントラゾンエチル、シニドン - エチル、フルミクロラックペンチル、フルミオキサジン、フルミプロピン、フルプロパシル (f l u p r o p a c i l)、フルチアセツメチル、スルフェントラゾン若しくはチジアジミンのような環状イミド；または、E T - 7 5 1、J V 4 8 5 若しくはニピラクロフェンのようなピラゾール；C 1 2) 光合成阻害剤、例えば、プロパニル、ピリデート若しくはピリダフォル；ペンタゾンのようなベンゾチアジアジノン；ジニトロフェノール、

例えば、プロモフェノキシム、ジノセブ、ジノセブアセテート、ジノテルブ若しくはD N O C ; シベルクアット - 塩化物、ジフェンゾクワット - メチルスルフェート、ジクワット若しくはパラコートジクロリドのようなジピリジレン; クロルプロムロン、クロロトルロン、ジフェノクスロン (d i f e n o x u r o n) 、ジメフロ、ジウロン、エチジムロン、フェヌロン、フルオメツロン、イソプロトウロニソウロン (i s o p r o t u r o n i s o u r o n) 、リヌロン、メタベンズチアズロン、メタゾール、メトベンズロン、メトキスロン、モノリニュロン、ネブロン、シデュロン若しくはテブチウロンのような尿素; プロモキシニル若しくはイオキシニルのようなフェノール; クロリダゾン; アメトリン、アトラジン、シアナジン、デスメイン、ジメタメトリン、ヘキサジノン、プロメトン、プロメトリン、プロバジン、シマジ、シメトリン、テルブメトン、テルブトリン、テルブチラジン若しくはトリエタジンのようなトリアジン; メタミトロン若しくはメトリブジンのようなトリアジノン; プロマシル、レナシル若しくはテルバシルのようなウラシル; またはデスメジファム若しくはフェンメジファムのようなビスカルバメート; C 1 3) 相乗剤、例えば、トリジファンのようなオキシラン; C 1 4) C I S 細胞壁合成阻害剤、例えば、イソキサベンまたはジクロベニル; C 1 6) 様々な他の除草剤、例えば、ダラボンのようなジクロロプロピオン酸; エトフメセートのようなジヒドロベンゾフラン; クロルフェナック (フェナック (f e n a c)) のようなフェニル酢酸; または、アジプロトリン、バルバン、ベンスリド、ベンズチアズロン、ベンゾフルオール、ブミナホス、ブチダゾール、ブツロン、カフェンストロール、クロルブファム、クロルフェンブロップメチル、クロロクスロン、シンメチリン、クミルロン、シクルロン、シブラジン、シブラゾール、ジベンジルロン、ジプロベトリン、ダイムロン、エグリナジンエチル、エンドタール、エチオジン、フルカバゾン、フルオルベントラニル、フルボキサム、イソカルバミド、イソプロパリン、カルブチレート、メフルイジド、モヌロン、ナブロップアミド、ナブロップアニリド、ニトラリン、オキサシクロメフォン (o x a c i c l o m e f o n e) 、フェニソファム、ピペロホス、プロシアジン、プロフルアリン、ピリブチカルブ、セクブメトン、スルファレート (C D E C) 、テルブカルブ、トリアジフラム、トリアゾフェナミド若しくはトリメツロン; またはそれらの環境適合性塩若しくはそれらの組み合わせ。

【**手続補正 6**】

【**補正対象書類名**】明細書

【**補正対象項目名**】0 0 3 5

【**補正方法**】変更

【**補正の内容**】

【**0 0 3 5**】

植物生長調節剤: D 1) クロフィブリン酸、2 , 3 , 5 - トリヨード安息香酸のようなアンチオーキシシン; D 2) 4 - C P A 、 2 , 4 - D 、 2 , 4 - D B 、 2 , 4 - D E P 、 ジクロルブロップ、フェノブロップ、I A A 、 I B A 、 ナフタレンアセトアミド、a - ナフタレン酢酸、1 - ナフトール、ナフトキシ酢酸、ナフテン酸カリウム、ナフテン酸ナトリウム、2 , 4 , 5 - T のようなオーキシシン; D 3) 2 i P 、 ベンジルアデニン、4 - ヒドロキシフェンエチルアルコール、カイネチン、ゼアチンのようなサイトカイニン; D 4) 例えば、カルシウムシアナミド、ジメチピン、エンドタール、エセフォン、メルホス、: メトクスロン、ペンタクロロフェノール、チジアズロン、トリブホスのような枯葉剤; D 5) アビグリシン、1 - メチルシクロプロペンのようなエチレン阻害剤; D 6) A C C 、 エタセラシル、エテホン、グリオキシムのようなエチレン放出剤; D 7) フェンリダゾン、マレイン酸ヒドラジドのようなガメトシド; D 8) ジベレリン、ジベレリン酸のようなジベレリン; D 9) アブシジン酸、アンシミドール、ブトラリン、カルバリル、クロルホニウム、クロルプロファム、ジケグラック、フルメトラリン、フルオリドアミド、ホサミン、グリホジン、イソピリモル、ジャスモン酸、マレイン酸ヒドラジド、メビコート、ピプロクタニル、プロヒドロジャスモン、プロファム、チアオジアン (t i a o j i e a n) 、 2 , 3 , 5 - トリヨード安息香酸のような成長阻害剤; D 1 0) クロルフルレン、クロルフレノール、ジクロルフルレノール、フルレノールのようなモルファクチン; D 1 1

）クレルメコート、ダミノジド、フルルブリミドール、メフルイジド、パクロブトラゾール、テトシクラシス、ウニコナゾールのような成長抑制剤；D 1 2）ブラシノリド、ブラシノリドエチル、DCPTA、ホルクロルフェヌロン、ヒメキサゾール、プロスレル（prosuler）、トリアコンタノールのような成長刺激剤；D 1 3）バクメデシュ（bachmedesh）、ベンゾフルオール（benzofluor）、ブミナホス、カルボン、塩化コリン、シオブチド（ciobutide）、クロフェンセット、シアナミド、シクラニリド、シクロヘキシミド、シブロスルファミド、エボコレオン、エチクロゼート、エチレン、フフェンチオウレア（fuphenthiourea）、フララン（furallane）、ヘプトパルギル、ホロスルフ、イナベンフィド、カレタザン（karetazan）、ヒ酸鉛、メタスルホカルブ、プロヘキサジオン、ピダノン、シントフェン、トリアペンテノール、トリネキサパックのような分類されていない植物成長調整剤。

【手続補正 7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0038

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0038】

活性成分は、例えば、乳剤（EC）、懸濁剤（SC）、サスポエマルジョン剤（SE）、カプセル懸濁剤（CS）、水分散性粒剤（WG）、乳化性顆粒剤（EG）、油中水型エマルジョン剤（EO）、水中油型エマルジョン剤（EW）、マイクロエマルジョン剤（ME）、油分散剤（OD）、油混和性フロアブル剤（OF）、油混和性液剤（OL）、可溶性濃縮剤（SL）、超低容量懸濁剤（SU）、超低容量液剤（UL）、分散性濃縮剤（DC）、水和剤（WP）または農薬的に許容されるアジュバントと組み合わせた任意の技術的に可能な製剤のような任意の適切な典型的な形態で本開示の発泡性製剤に添加され得る。

。

【手続補正 8】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0039

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0039】

適切な発泡剤は、アルカノールアミド（コカミドジエタノールアミド、ラウリン酸モノイソプロパノールアミド、およびエトキシ化ミリストアミドなど）、オキシエチレン脂肪酸エステル、ポリオキシエチレン脂肪アルコールエーテル（アルキルアリアルポリグリコールエーテルなど）およびフルオロカーボン（エトキシ化ポリフッ素化アルコールなど）を含む非イオン性界面活性剤；アルキル -、アルキルアリアル -、およびアリアルスルホネート（ラウリルサルコシン酸ナトリウムなどおよびアルキルベンゼンスルホン酸ナトリウムなど）、アルキル -、アルキルアリアル -、およびアリアルスルフェート、タンパク質加水分解物、ポリカルボン酸の誘導体（アンモニウムラウリルエーテルカルボキシレートなど）、オレフィンスルホネート（アルファオレフィンスルホン酸ナトリウムなど）、サルコシネート（アンモニウムシクロヘキシルパルミトイルタウリネートなど）、スクシネート（例えば、二ナトリウム N - オクタデシルスルホスクシナメートなど）、リン誘導体（リン酸エステルおよびそれらの同等物の塩など）を含むアニオン性界面活性剤；アルキルベンジルトリメチルアンモニウムクロリドを含むカチオン性界面活性剤；ベタインを含む両性界面活性剤であり得る。特に好ましい発泡剤は、バイオソフト D - 40、バイオタージ AS - 40、アンモニックス DO、アンモニックス LO、ステオル CA - 330、CEDEPAL TD - 407、およびポリステップ B - 25 である。製剤における発泡剤の総濃度は、用いる発泡剤に依存し得、最終製剤の約 0.1% から約 50% の間、好ましくは約 0.3% から約 30% の間、より好ましくは約 5% から約 25%、さらにより好ましくは約 17% から約 23% の間で含み得る。

【手続補正 9】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 1 1 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 1 1 7】

(付記 1 6)

前記農薬活性成分は、マイクロエマルジョン、水中油型濃縮エマルジョン、懸濁液、懸濁剤、乳剤またはマイクロカプセルの形態で液体農薬製剤中に存在する、付記 1 に記載の液体農薬製剤。

【手続補正 10】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 1 1 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 1 1 8】

(付記 1 7)

前記農薬活性成分は、懸濁剤の形態で液体農薬製剤中に存在する、付記 1 5 に記載の液体農薬製剤。

【手続補正 11】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 1 1 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 1 1 9】

(付記 1 8)

前記懸濁剤は、2 年のタイムスケール以上安定している、付記 1 7 に記載の液体農薬製剤。

【手続補正 12】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 7】

前記農薬活性成分は、マイクロエマルジョン、水中油型濃縮エマルジョン、懸濁液、懸濁剤、乳剤、またはマイクロカプセルとして前記液体農薬製剤中に存在する、請求項 4 に記載の液体農薬製剤。

【手続補正 13】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項 2 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 2 2】

前記農薬活性成分は、マイクロエマルジョン、水中油型濃縮エマルジョン、懸濁液、懸濁剤、乳剤、またはマイクロカプセルとして前記発泡性液体農薬製剤中に存在する、請求項 1 8 に記載の溝内の種を処理する方法。

【手続補正 14】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項 2 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 27】

前記発泡性液体農薬製剤の懸濁剤は、2年のタイムスケール以上安定している、請求項18に記載の溝内の種を処理する方法。

【手続補正15】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項28

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項28】

種が溝に植えられる前、間または後に、機械的プランターから放出される種を処理するための泡として発泡性液体農薬製剤を分配するための機械的プランターであって、

発泡性液体農薬製剤および圧縮性液体担体を受け取るように構成された泡混合チャンバーであって、前記発泡性液体農薬製剤は、少なくとも1つの農薬活性成分、少なくとも1つの発泡剤、少なくとも1つの発泡安定剤、および前記発泡性液体農薬製剤から泡を生成するためのガスを含み、前記発泡性液体農薬製剤中の水の量は、前記発泡性液体農薬製剤の重量に基づき0から10重量%であり、前記農薬活性成分は、マイクロエマルジョン、水中油型濃縮エマルジョン、懸濁液、懸濁剤、乳剤、またはマイクロカプセルとして前記発泡性液体農薬製剤中に存在する、泡混合チャンバーと、

前記泡混合チャンバー内に位置する泡媒体であって、当該泡媒体を介して圧縮液体が前記発泡性液体農薬製剤を泡出口に導く、泡媒体と、

前記泡出口に連結する少なくとも1つの導管であって、前記導管が前記泡混合チャンバー内で生成された泡を搬送ノズルに搬送するように構成され、前記搬送ノズルは、さらに種溝に向けられ、エーカー当たり1ガロン以下の割合で前記機械的プランターから溝に種を植える前、間または後に種を処理するのに有効な量の泡を提供する、導管と、

を含む、機械的プランター。